

ドナウ通信



2007(平成19)年・秋季号



October

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

November

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

December

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

目次

運動部情報

ランニング部

ハーフマラソンに9名出場

盛田 常夫

1

人生で二度目のメダル

田中 宏

2

日本人学校参加記

飯川 浩二

4

兼子健太・小松 愛・山下芽惟・船山聖奈・松下 隼也

走っている時は何を考えてる？

兼子 秀昭

7

マラソン大会初体験

仲川 寿一

9

テニス部

テニス奮戦記（日曜午前の部）

高橋 幸二

10

岡崎さん送別テニス会報告

日曜午後の部 アスリートのテニスを

茂木 昌

13

ゴルフ部

マッチプレー選手権決勝観戦記

飯尾 欽哉

15

ところ変われば

星野 讓司

19

ゴルフ三昧！ in Hungary

島川 幹巨

20

ゴルフと芝

町野 憲善

20

釣り部

釣りのスポーツ性の考察

関本 正

23

小林研一郎コンサート鑑賞

第九を聴いて

坂井 圭子

27

鑑賞記

大島 優・山下芽惟・船山聖奈・船山憧香

29

日本人学校運動会

恩田依以子・佐藤陽香

32

秋季ソフトボール大会 ― 最後の大会

小松 幹

33

野球・ソフトボールやりませんか

藤原 洋造

34

緑の丘日本語補習校

本日も快晴なり！ フルディ 満名実

37

運動部情報

ランニング部

ハーフマラソンに9名出場

盛田 常夫

9月2日に開催されたブダペスト国際ハーフマラソン大会に、多数の在留邦人が参加しました。個人レースに9名、リレーに2名が、そしてエキジビションの3・5kmに7名の日本人学校生徒が参加しました。全員無事、完走しました。

3・5kmレース完走者

兼子健太・小松 愛・山下芽惟
船山聖奈・松下隼人・島戸優輝
橋本直樹

ハーフマラソンリレー結果

日本人学校チーム（兼子・仲川）
2時間08分22秒

ハーフマラソン結果（ネット記録）

盛田 常夫	1時間36分51秒
飯川 浩二	1時間38分21秒
田中 宏	1時間48分48秒
辻 太久郎	1時間58分49秒
関口 洋	2時間01分47秒
稲家 隆博	2時間15分42秒
古川 将人	2時間17分40秒
木村 晶子	2時間22分17秒
西田 友美	2時間23分25秒

今回のハーフマラソンには千名の外国人を含む5600名のほか、800のリレーチームがスタートに立ちました。制限時間はネットで2時間30分ですが、実際には2時間50分の最終ランナーまで完走を受けられました。最後まで走らせるのがヨーロッパの大会です。

3時間だと速歩ですが、それでも3時間歩き続けるのにはそれなりのトレーニングが必要です。しかし、距離そのものを克服するのは難しく



国際ハーフマラソン、スタートの瞬間

ありません。健康な人であれば、誰でもハーフマラソンは完走（歩）可能です（2時間半以内で）。きちんと練習すれば、3ヶ月でもそれなりのタイムでハーフマラソンが走れることは、初めて長距離を走った田中宏さんが実証してくれました。すでに帰国した村上義さんも、ほぼ半年のトレーニングで田中さんと同じようなタイムで完走しました。

ただし、そこからタイムを縮めるのは難しいのです。距離を克服することは積み重ねがあれば達成できます。それにたいして、速く走るためにはスピード練習が必要ですから簡単ではありません。かなりのトレーニングが必要になります。

タイムを目指すのではなく、楽に長い距離を走ってみませんか。週に2〜3日、5kmの距離を走ることから始めれば、来年のレースに十分に合います。完走のためのトレーニングメニューをお教えます。

ハーフマラソン完走記

人生で2度目のメダル

田中 宏

9月2日ブダペスト国際ハーフマラソンに参加、完走できた。もともとスポーツ・体育系の生活をおくってこなかったのですが、この手のメダルは貰うことはなかった。今回で2度目である。最初のメダルは、高知のよさこい祭りで際立った踊り手に与えられるものだった。

ブダペスト国際ハーフマラソンに参加してみようと決意したのは、盛田さんの勧めである。4月にブダペストにやってきてお会いしたときに、3〜4か月あれば完走できると勧められた。だが、実際に始めたのは単身で仕事場とフラットの往復という単調な生活リズムにアクセントをつけるためだった。小学校のとき、寒風マラソン、校内マラソン大会があ

ったが、それ以来マラソンと名がつくものをやっていない。40数年ぶりである。だが、日本では3年ほど30分かけて徒歩で通勤している。

練習場所はマルギット島（1周約5キロ強、ランニング用のソフト・コースが整備されている）。フラットから中古自転車を通った。ここは夕方6時から8時までの時間帯にはランナーで実に混在するが、ランニングのなかの夕陽は素晴らしい。初日は5月19日。1周に34分もかかった。2周完走は6月6日。3周完走は6月24日。6月末左膝と右足くるぶしの調子が悪くなって練習休止。7月17日に再開。8月初旬ポランドでの一週間の夏休みで休止。そして初めて4周を完走したのが8月19日。それも計3回しかない。記録では3か月半に計40回練習したことになる。同世代のランナーとも知り合いになった。一番恐れていたのが暑さと膝の故障、筋肉の痙

彎である。長距離ランナーには2つのタイプがあり、足で走るタイプと肺で走るタイプがあるらしい(ネット情報の押し売り)。小生は後者のタイプだろう。肩甲骨、ろっ骨、脊椎の間の筋肉の緊張をトレーニングで緩めることで呼吸を非常に楽にして、呼吸リズムを保ちながら走るタイプである。40回の練習のうち、故障もあり、何度か修正、工夫して、力まないゆったりと走る独自のフォームが出来上がった。でも実践で役に立つのか。不安を解消するために、8月30日にコース後半の10キロを完歩して、走れる目途がついた。

9月2日当日の朝は、前日までの悪天候とはかわって快晴に恵まれた。9時過ぎに会場に着くと、お祭り騒ぎである。そのなかで黙々と調整・走っている人々もいる。スタートは10時、5600人以上が一斉に走りだす。と想像していたのだが、最後列のグループ(2時間以上の予定タイム)に入っていたので、号砲からほぼ10分遅れで出発した。すごい人混みである。アンドラーシュ大通りをみんなが幅いっぱい広がって走る。この解放された感覚はどこかに記憶がある。沿道の人から声援を受け、途中ガンガン響く音楽にリズムしながら、走るのは奇妙な体験である。ドナウ川兩岸の走りは半ば閉じ込められた単調さを持つが、川風の心地よさは最高であった。マルギット島の東対岸から国会前そして西駅前の高架道路までが一番苦しいポイントだった。同じ道路をウターンして走るのは精神的によくない。

アルコトマーニ通りで「日本人頑張れ」の声援をハンガリー人から頂いた。西駅を過ぎると自分なりの最高のペースで次々と抜きながら市民公園へ。ゴールの時計は11時55分を表示していた(あとで分かった正確なネットタイムは1時間48分48秒)。そして完走メダルを首から下げてもらい、やったというポーズ。単独ランでカメラをもっていなかったのも日本人女性にお願いして、写真を撮ってもらった。感謝。あとで聞くと、ハンガリーの友人も夫婦で応援に駆け付けてくれていたらしい。余裕がなかったのか、参加者が多すぎたのか、気がつかなかった。十分にクールダウンして、どんな人が最後を走るのか、興味があったのでゴール近くに待機してみていた。

アンドラーシ通りを埋める参加者



ハーフの制限時間は2時間半なのだが、実際に終了したのは3時間10分を過ぎていた。

高齢者はもちろん、知的障害を持っているらしい人、歩行障害があるような人、走るとかえって膝の障害があるのではないかとこちらが心配になる方が非常にゆっくりと、そしてゆったりと完走していた。最後のランナーがゴールするのを見たとき、自分のゴールとは違った爽快さが体を吹き抜けていった。



好記録でゴールした飯川先生

日本人学校ブダペスト国際ハーフマラソン参加記

飯川 浩二

本校からはハーフマラソンに教員2名と保護者1名、リレーマラソンに教員2名、3・5kmのファン・ランに児童生徒7名が参加しました。未経験の長距離に参加する者が多く、子どもの参加にあたっては、保護者も一緒に練習に参加したり、教員も声をかけ合って練習したりと、本番に向けた地道な努力がみられました。今年度の本校の柱の一つにも「体力の向上」をあげているように体力の低下が叫ばれ始めて久しいです。マラソン大会への参加には、何ヶ月も前から準備が始まりますので、老若男女の体力の維持・増進にはもってこい입니다。これからも多くの大会へ日本人学校関係者の参加が恒例になるといいと思っています。



関口洋さん、ゴールの瞬間

参加感想記

中学部2年 兼子 健汰

僕は初めてブダペストのマラソン大会に出場した。まず、会場に行っ
てびっくりしたのは、出場者の多さ
だ。噂には聞いていたけれど、スタ

ート地点はまるでお祭り騒ぎのような盛り上がりだった。参加者一人ひとりが、走ることを楽しみにしているように思えた。

僕がスタートラインに立ったとき、このレースがどんなものになるか楽しみだった。アナウンサーの「がんばれ」という日本語の応援が聞こえて、温かい気持ちになった。僕はこの大会に向けて特別な練習は何もしなかった。速く走るとか、いい記録を出そうということではなく、他国の人たちと一緒に走るということに意義があると考えていた。レースでは自分のペースを崩さず、完走することができた。僕がゴールしたときには、たくさんのお客様の人々が拍手で迎えてくれた。頑張った後の拍手はとてもうれしかった。

僕はハンガリーに来て、水泳のスクールにも通い続けている。言葉が通じなくて大変な思いをすることもあられるけれど、実際に体を動かしてい



3・5 km 走のスタート風景

るときは、言葉の壁やハンガリー人だから日本人だからという国の違いを意識したことはない。だから、今回のマラソン大会でも同様に、スポーツは国を超えてだれでも楽しむことができるものである、ということが改めて実感することができた。

小学部 6年 小松 愛

ハンガリーでのマラソンは、今回が三回目でした。一・二回目はリレーマラソンで一・五 km でしたが、今回は倍以上の 3・5 km だったので、とてもドキドキしていました。

夏休み前、船山聖奈さんに、「九月に 3・5 km のマラソンがあるらしいんだけど出る？」と聞かれました。わたしは、とても迷いました。(3・5 km かあ。走れるかなあ・・・?) そんなことも思いました。そしてわたしは(せっかくの機会だし、出よう!)と決めました。

当日。いよいよ走る日が来ました。朝起きたらドキドキして、落ち着いていられませんでした。家を出て場所に着くと皆がいました。何故か友達の色を見ると、安心した気持ちになりました。本番の前に、山下さんと船山聖奈さんと三人で少し走りま

した。わたしは、走っている最中に（早く走るのもそうだけど、まず完走することを考えよう）と思いました。

スタートする時はなるべく前に走りました。皆でカウントダウン。「五、四、三、二、一、．．．．．パーンッ！」

わたしは自分のペースで行こうと思いました。途中でおなかが痛くなつたけど、一生懸命走りました。音楽の音が聞こえてくると痛みも吹っ飛び、思いきりゴールすることが出来ました。

小学部6年 山下 芽惟

「ティズ、キレンツ、ニヨルツ．．．」
九月二日。今日は今年二度目のマラソン大会だ。

「ハーロム、ケットウー、エジ、パアン」

今スタートした。今回のマラソン

は3・5キロだ。日本人学校の児童生徒は七人出場した。

「芽惟、今からマルギット島に走りに行くからね」

大会の二週間前、学校から帰ってきた私に母は言った。私は走りに行つたが、今まで練習していなかつたのでとても苦しかった。でもドナウ川の向こうに見えた夕日が元気をくれた。それから夕方マルギット島に走りに行くのが少し楽しみになった。

大会前の金曜日、マルギット島に走りに行つた。私はこの日、3・5キロをどれくらいで走れるか確かめた。その日は約二十分かかった。私は最後の夕日に（絶対二十分以内に走つてやる）と強く思った。

スタートしてからどれくらいだったかわからなかつたが、だいたい半分くらい走つたことはわかつていた。練習の時は半分でも結構苦しかったのに、今日はあまり苦しくなかつた。「いける、いける」

人の声が近くなってきた。もうすぐゴールだ。ゴールが見えてくると自然とペースが上がった。「よし、もう少しだ」

左は聖奈ちゃん、右が芽惟ちゃん



タイムを見たら十八分だった。

「やったー。目標の二十分を切つた」
ゴールした後、いきなり疲れた感じがした。でもうれしさと疲れなんて吹き飛んでしまった。

次はもっと速く、長い距離を走れるようにがんばろうと思う。

小学部6年 船山 聖奈

私は初めて3・5kmのマラソンに参加しました。今まで3・5kmも走ったことが無かったので一緒に参加する芽惟さん愛さんとマルギツト島に走りに行きました。最初はゆっくり走ったのでタイムは遅かったけど、完走できました。三人で走りに行ったのが夏休み前だったので、夏休み中はできるだけ走りに行こうと思っていたのに結局一回しか行きませんでした。マラソン大会の前日になってあせった私は走れるかどうか不安だったので走りに行きました。走ってみるとずっと運動してなかったので体が重く感じました。

マラソン大会当日、走る前にハーフマラソンを見ました。参加する人がすごく多くて、参加者全員がスタートするまで9分もかかっていました。私の参加するマラソンは3歳くらいの子やお年

よりの人も沢山いました。ハーフマラソンのスタートを見ていたのでスタートが大変にならないように行くべくスタートラインの近くに三人で行ったのでスムーズにスタートできました。走ってみるとすごく気持ちよく走れました。タイムも今まで一番良かったのです。これ以上長い距離を走るのは多分今の私には無理だと思いますが、3・5kmも走れたので満足しています。

これからもマラソンを続けていきたい。

小学部6年 松下 隼也

ぼくは、九月二日の3・5km走る大会に出場しました。スタートの場所に移動した時、たくさんの方がとてもおどろきました。ハンガリーですごく大きな大会だと聞いていたけど、それは3・5km以上

を走る人たちが多くて、3・5kmのマラソンは、もっと出る人が少ないと思っていたからです。

スタートした時、最初はみんなにおいていかれないようにについていたけど、速くてついていくのが大変だったので、途中から自分のペースで走りました。だから一度も歩かずに走りきることができました。この間のリレーマラソンよりきつかったけど、ゴールした時はとても気持ちよかったです。また来年もこの大会に参加して、今年より良い記録を出したいです。これからもマラソンを続けていきたいです。



黙々と走る隼也君

走っているときは何を考えてる？

兼子 秀昭

「へえー、ドナウクルーズもここはこんなに安いだ」

「げっ、このスポーツドリンク舌が赤くなりそうだ」

走っている人はいったい何を考えて走っているのでしょうか。わたしはこのようになつたらいいことばかりを考えて走っています。

そもそも、今回のマラソンに参加することになったきっかけは、5月のリレーマラソンに日本人学校の児童生徒が参加し、その応援に行ったからです。やっぱりレースで走るのは気持ちいいのだろうなあ、という思いが渦巻ききました。そう思ったらもう居ても立ってもいられません。一も二もなく参加を決めました。でも、これまでわたしがレースで走った距離といえば10kmが最長です。そこで、体調不良や練習不足

を言い訳に、自分が逃げられないようにリレーの部にでることにしました。これなら自分もやらざるをえないだろうと考えてのことです。そうなんです、私は自分には甘い人間なのかもしれません。こうして崖っぷちに立たないと飛び込めないのです。

でもおかげさまで、自分なりに練習に取り組むようになりました。練習をするようになって良い面が始めました。これまで夏休み中にはちよつと肉がたるんでしまい（ビールの飲み過ぎです）、戻すのに時間が結構かかっていたのですが、今年の夏は戻りが早かった。きっとこれまでより多い運動量だったからでしょう。

近所の道を多く知ることができました。夕日の美しさもヤーノシュ山の眺めのいいスポットも発見できました。自動車に乗っているばかりでは見えないものばかりでした。レース当日のドキドキした感じも日常では味わえないものでした。

やはり人間って、動機付けて大切なんですね。このことは教育に関わるものとして、子どもたちに十分還元できることです。これも副次的ではありますが良い面でした。さて、レース後に私が考えたことです。

「あれっ、メダルって一人で走った人だけもらえるんだ」
つまらない考えから次のレースが始まるのかもしれませんが。

マラソン大会初体験

仲川 寿一

マラソンに関して全くの素人で、勢いで参加したに過ぎなかったのだが、初出場の感想をというところでパソコンに向かっている。正直言っても長距離を走るのはあまり好きではない。むしろ苦手なほうである。もう若くはないし、何度も禁煙に失敗している。自分がマラソン大会に出場

するなんて考えてもみななかった。毎年行われているマラソン大会に特に関心を持ったことさえない。そんな自分が、ひよんなきっかけから、日本人学校の数名の先生達と一緒にブダペスト・ハーフマラソンに参加することになった。といってもリレーマラソンで私の走る距離は8km。軽い気持ちで誘いに乗ってしまった。本番を意識したのは一週間前。何かしなければと思い、同僚の先生のランニングに二回だけお供させてもらい、何とかついていけた。普段子どもたちと体育の授業をしているし、ハンガリーの野球チームの試合にも出ているので、体力に自信はあった。しかし8kmの距離を休まずに走るなんて、高校の部活以来の出来事だ。

さて、当日。マラソンをなめていると叱られるかも知れないが、前日、知り合いのカラオケボックス開店記念パーティーに招待され、夜中の1時まで歌ってしまった。当然のごとく寝不足と二日酔い。そんな状態で走れるのか、自分でも分からなかったが、こうなったら気合いで乗り切るしかない。頭が痛い、走った汗でアルコールを体外に出そうと思った私は第二走者なので、市民公園のスタートを見送ってから、地下鉄で中継地点の鎖橋に向かった。

それから待つこと約1時間半。体調はだんだん回復してきた。これは行けるかも知れない。第一走者が見えてきた頃には、走る気満々だった。これもまたお叱りを受けるかも知れないが、私はちゃんと走れる靴を持っていなかった。だから第一走者の同僚の先生のジョギングシューズをそのまま受け継いで、いや履き継いでスタートした。

いざ走り出してみると、思ったより体が軽い。調子に乗ってどんどん追い抜いていく。あまりに調子に乗りすぎて、途中で横っ腹が痛くなってきた。少しペースダウンしよう。

するとまた回復し、ペースアップ。そしてまたダウンの繰り返し。全くむちゃくちゃな走りだった。結果は、8kmを約45分で走りきった。二十数年ぶりに長距離を走ったにしてはまずまずの出来だ。そして、来年もまた出てみたいと思っている。記録なんてどうでもいい。走っていてとても気持ちよかったからだ。一番の理由は、沿道の人々の声援。誰彼なく温かい声援を送ってくれるハンガリーの人たち。所々で応援の演奏も見られた。そんな中で走るのは何とも言えない、初めて味わう気分であった。体の底から力が湧き上がってくるのだ。第二の理由は、終わった後の心地よい疲労感。これは他のスポーツでも味わえるが、苦しい長距離走の場合はおおさらである。来年は、不摂生をやめて体調を整え、ちゃんとジョギングシューズを用意して参加することをお約束し、この原稿を終わらせて頂きます。

テニス部

テニス奮戦記（日曜午前の部）

高橋 幸二

ハンガリーに赴任して一ヶ月少々、まだまともに地理もわかっていなかった昨年九月中頃、仕事上関係が深いジェットロのMさん（既に日本に帰国）から誘われたのがテニス日曜午前の部に参加するきっかけとなりました。

通勤が唯一の日々の運動であった東京での生活とは異なり、ブダペストでは通勤が自家用車になるため、努めて運動しようとしないうり、あつという間に運動不足に陥ってしまいました。母校であるM大学のラグビー部はモットーが「前へ！」でありますが、肥満やメタボリック症候群に向かつてそうなるわけにはいきません（苦笑）。そこで、機会があれば

活用しようと日本からの引越し荷物の中にテニスラケットとゴルフクラブを突っ込みました。そして、その引越し荷物でハンガリーに到着したタイミングでMさんからテニス部参加の声がかかったので、二つ返事で参加することにしました。

ただ、テニスをする心の準備は出ていた一方で、ちよつとだけ躊躇したのも事実。理由は技術レベルが低いからで、一言で言えば「下手くそ」だったからです。初めてテニスをした日から十六年の月日が経っていたとはいえ、コーチングも最初にほんの少し受けただけだし、ブダペストに来る直前少なくとも四年間はラケットを握った記憶がありません。こんな状態でしたので、かなりの不安感を覚えつつ、昨年十月始めに初練習の日を迎えました。

テニス日曜午前の部は、朝九時から十一時までの二時間で、ヴァーロシュマヨルのコートで活動していま

す。入れ替わりはありますが、当時も今も人数は十五人前後。時間の使い方は、最初に肩慣らし・足慣らしの意味でラリーをした後、ダブルスのゲームを行うというよくあるテニスサークルのスタイルです。

久しぶりにラケットを握った初練習の際には、事前の不安が見事に的中する結果になりました。まともに打ち返せないわ、打ち返したと思ったらボールはコートの外まで飛んでいくわでラリーが成り立ちません。そんな状態でダブルスの試合なんかするものですから、僕のミスから負けてばかりだったので、始めの数ヶ月間は内心ラリーやダブルスのパートナーに対する申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

それでも、ここまでテニスを続けられたのは、メンバーの寛大さと技術レベルが高い人の指導のおかげだと思います。日曜午前の部は僕のような初心者同然の者からすぐくうま

い人までレベルにかなりの幅があり
ますが、うまい人は丁寧に打ち方な
どを教えてください。それに、メン
バーは皆様フレンドリーで、ラリー
や試合でどんなミスをおそれようと誰も
嫌な顔一つせず、受け入れてくれま
す。このおかげで、僕も安心してこ
れまでテニスが続けることができ、
継続すれば多少なりとも上達するの
で、今では何とかパートナーの足を
引っ張らない程度のレベルにまでな
ったかなあと感じています。

もっとも、日曜午前の部の最大の
特徴は老若男女が一緒にテニスを楽
しむ場になっている点ではないかと
思います。日曜午前の部には僕のよ
うな駐在者のみならず、既に仕事は
卒業して年金で生活されている方も
いれば、企業の現地採用で長くハン
ガリーに滞在されている方などバラ
エティに富んでおりますし、ご夫人
を中心に女性も数名いらっしやいま
す。昨年十月当初は僕だけの参加で

したが、この四月からは家内も参加
し、夫婦でテニスを楽しむようにな
りました。家内は、テニススクール
でコーチングを受けた経験があるよ
うで、僕よりはうまいものの、ラケ
ットを握るのはやはり数年ぶり。当
初は相手手こずっていましたが、指
導を受けつつ練習を重ねることで、
最近ではレベルがだいぶ向上してき
たようです。

僕らのように夫婦での参加は、他
にも三組いらっしやいます。その中
は、夫婦でダブルスを組むのは争い
の素になるので避けたいななんて冗談
めいて言う方や、夫婦でうまい人な
ど多種多様です。もっとも、仮にダ
ブルスで夫婦が組んだとしても、試
合中に夫婦げんかが発生するような
ことはまずありません。若干厳しい
喝入れが入ることはありますが(笑)。
もちろんテニスだけをしていると
いうわけでもなく、メンバーの転勤
に伴う壮行会も適宜開催され、メン

バー間の親交はそのような場を通じ
ても深まりつつあります。

以上、自分のこの一年間の奮闘ぶ
りを交えつつ、日曜午前の部の活動
ぶりを報告させていただきましたが、
このように日曜午前の部は「テニス
を楽しみつつ、親睦を図る」ことを
第一の目的とした集まりです。テニ
スをやってみてみたいという方、テニス
を更に上手になりたい方、誰でも気
軽に参加してみたい方がでしよろ
うか？いつでもメンバーを募集してい
ますので、多少なりともテニスをし
たいというお考えがお持ちであれば、
お試しでも結構ですので参加をお待
ちしております。



岡崎さん送別テニス会報告

土曜日の部

7月22日(日)午後1時、モスクワ広場から車で15分ほどの所にある丘陵地帯に黒いサングラスを掛け、日焼けした半そで半ズボン集団が出現。バカンスに来ている水着姿のおじさん、おばさんが目で追いかける。サッカー場周辺で暴れるフリーガンの集会ではない。

今日はウィーンテニス対抗戦で主将を務めた岡崎さんの送別テニス大会だ。各部における通常のテニス活動を終え、駆けつける。みんなすっかりテニス焼けで到底アジア人には見えない。この時期、テニスコートは閑散とするのが常。夏休みでかつ週末となれば旅行や家族サーブスでテニスをする人は皆無に等しい。たとえブダペストにいる人でも観測史上最高気温を連日更新し、通常の数倍の紫外線が降り注ぐ危険な酷暑の

中でテニスをする気にはならない。そのような状況下でも毎週テニスをする人は(この中にはテニス前にゴルフを炎天下でする人たちも含まれるのだから)フリーガン以上だ。類まれなる精神の持ち主である。

酷暑の中、気さくでオープンな岡崎さんを慕って様々なクラブからテニス愛好者がやってきた。土曜日テニスクラブから7名、日曜日午前チームから5名、日曜午後チームから2名が参加。4面あるコートのうち、3面(クレーコート)を利用した。第1コートは今回帰国される岡崎さん専用コート、第2コートは疲れを知らないMさん専用コート、そして第3コートは練習用コート。午後1時から4時までプレーしたが、高台にあるため強い風とまぶしい太陽の光に邪魔をされ、波乱のゲーム展開もありました。とはいえ、怪我する人も出ず、楽しい3時間でした。2日連続でテニスをする方が多く、体



送別テニス大会の記念写真

力を使い果たし、その後の送別会では思い残すことなく楽しまれていました。(筋肉痛は翌日に持ち越しの方もいました。)

帰国にあたっての思いを岡崎さん自身が書くのが良いですがご多忙かつシャイということで土曜日テニスメンバーを代表して岡崎さんの功績について書きます。

2003年の10月より土曜日テニス部に参加。今までベースコートで相手がミスするまで打ち合っていた静かなテニスにサーブアンドボレーの戦術を初めて持ち込まれました。それにより試合に躍動感が生まれ、他のメンバーに技術向上欲を刺激。サーブアンドボレーだけでなく、それに対抗するためのロブや低いリターン等今までにやったことがなかった技術的の必要性を実感させてもらいました。そして現在、新たなメンバーも加わり、最も激しく、かつ楽しいダブルステニスをする部へと変

容しました。土曜日テニスに大きな変革の契機を作り上げた大きな立役者の1人です。

岡崎さんの特徴は技術的安定と年齢に屈しないタフさである。テニスを2、3週間休んでも、それを感じさせないプレー。安定的に高い技術を披露できることに誰もが感心している。また年齢的にも50歳を超えているにも関わらず、五十肩や腰痛にめげず、参加して戴いた。そのため高齢による(テニスをやる人は比較的若いですが)欠席は理由とならないという、良き前例を作ってもらえた。そのため年齢に関係なく若さあふれる人達で盛り上がっている。いつかこのように10年後20年後に岡崎さんのようにテニスをしていきたいというメンバーは多い。日本に帰国されてもテニスを続けられるということでも更なる飛躍を祈っています。



日曜午後の部

アスリートのテニスを

茂木 昌

テニスとの付き合いは、もう20年以上になる。

数年前、在留邦人のスカッシュサークルを発足させたりしたこともあったが、結局、「浮気」は長続きせず、テニスに戻った。思えば、かなりのスポーツに熱中してきた。中学時代はバスケット、高校ではバドミントン、大学では空手、そのほか、ボク

シングやランニング、スイミング。だが、テニス以上のスポーツは出てこなかった。

そして、今では、テニスは趣味というのとどまらず、生活の一部と なっている。

あらゆるスポーツがそうであるように、テニスの腕前には二つの要素が絡んでいる。ひとつは、基礎的な体力。もうひとつは、技術だ。

一般的には、歳を重ねるにつれ体力が衰えていくから、その分を、技術の向上でカバーしようとする。それは間違いではないのだが、体力の衰えを仕方ないと諦めた時点で、テニスは小手先のスポーツになってしまう。ここが、趣味としてのテニスか、アスリートとしてテニスをするのか、の分岐点になる。



具体的に言うと、球を打つときに、ひざを十分に曲げ腰を落としているのが、アスリートとしてのテニスだ。

それによって、球に力が伝わり、スピードが乗る。運動不足で足腰が弱くなると、打つたびに腰を下げるなどという面倒なことができなくなる。そうして、羽根突きの延長線上のようなお遊びのテニスになっていく。

自分にとって、テニスが、単なる趣味ではなく生活の一部、というのは、要するに、こういうことだ。テニスが上達するということは、上手くなる、というのとどまらず、自分がアスリートでいる、という強烈な願望を象徴することなのだ。もっと平たく言えば、テニスを通じて、自分の体と健康をつくっているということだ。

人は誰でも歳をとっていくが、仕事や家庭という日常の中で、自分の体力に見切りをつけたときが、本当の老化の始まりだろうと思う。そう



いうわけで、毎週日曜日のテニス部は、和気藹々ではなく、テニスに青春をかけ、本気で上達したい人たちが集まっている(ホントか?)。

かつて、テニスのエッセーをドナウ通信に書いたとき、「茂木さんの寄稿文のせいで日曜テニスがますます敬遠される」と仲間から責められたことがあるが、今回のエッセーも、その轍をいっそう深く踏んだ気がしないでもない。

自分自身では、決して体育会系の人間とは思わないが、どうせやるなら本気でやった方が楽しい、と思う。うーむ、やはり、体育会系なのだろうか。

日曜テニス部、やる気のある方の参加お待ちします!

ゴルフ部

第8回ゴルフマッチプレー選手権決勝観戦記

飯尾 欽哉

9月9日(日)、今年で第8回目となるゴルフマッチプレー選手権の決勝戦がパンノニア・ゴルフクラブで行われた。5月第一週から約4ヶ月をかけて行われたこの戦いの出場者は日本人会ゴルフ部総勢50名の内、約半数の23選手。技術面での攻防戦に加え、選手夫々のハンディキャップ(HCP)を利した熾烈な心理戦でもあった。決勝に進出したのは前回大会優勝の島川選手(関ペ、HCP8)と今年初出場の星野選手(SEWS、HCP21)。大会規定により使用するHCPは夫々のハンディ差の8掛切捨て。即ち両選手のハンディ差は10。ティーオフは7時半。気温12度、強い風がコースを

前後左右に吹き抜けるという、プレーヤーにとって非常に厳しい気象条件であった。

ホール1…パー4

第一打に望む両選手ともに無言。緊張が漂う。両選手共に左前方にある池を避け、右方に押し出す安全策、220ヤードのティーショット。星野選手の2打目は深いラフに食われてチョロ。島川選手は2打目で果敢にグリーンを狙うが、グリーン奥に外す。星野選手の第3打はグリーン右に外れ、漸く4打目でピンから2ヤードにオン。島川選手の3打目は難しいラフからピン手前20ヤードにオン。星野選手の5打目、パットが入らずダブルボギーの出だし。島川選手、4打目を外すがそこで星野選手からOK(正しくは「コンシード」という)が出て、第1ホールは島川選手の勝ち、1アップ。

ホール2…パー4

オナーは島川選手。第1打は中央にあるバンカーを避け、強い逆風の中、フェアウエー中央にナイスショット。星野選手の第1打はフックがかかってあわやバンカー、と思つた途端、一旦入ってから飛び出す幸運。島川選手の第2打は2段グリーンの下段にオンもカップまで20ヤード。星野選手の第2打はピン左10ヤードにオン。島川選手の3打目は3ヤードを残す弱気のパット。星野選手も同様1・5ヤードのショット。島川選手の4打目、カップの上方に外してボギー。星野選手は慎重にラインを読んでカップイン。パーで勝ち。(スクエア)

ホール3…パー3

打ち下ろしのショットホール。星野選手の第1打は風に流されて大きく右に外れる。島川選手の1打目はダブってグリーン手前のバンカーま

で届かず。星野選手の2打目、強く打ちすぎてピン横から左下に大きく外れ、返すパットも5ヤードオーバー。島川選手の2打目、ピン横6ヤードに乗せ、これをねじ込んでパー。星野選手思わず苦笑い。(島川選手1アップ)

ホール4…パー4 ハンデイのあるホール(HCPホール)

強烈なフオローの風。島川選手の第1打は「あれっ、いけねえ」のセリフを残しフェアウェイ奥に突き抜ける。星野選手は上昇気流に乗らず失速。続く2打目はボールの頭をこすって100ヤード足らずの距離。島川選手の第2打はラフから風に乗せて見事なオン。星野選手の3打目、グリーン右上3ヤードにオン。島川選手のパットはカップを管めて外れるもOKパー。難しいラインを良く読んだ星野選手、ナイス・パー!。ハンデイで勝ち。(オール・スクエア)

ホール5…パー5

強いフオローの風。島川選手は3打でパーオン。星野選手は第3打を右のラフに入れて難しいアプローチを残す。4打目、左足下がりの難しいアプローチをピンにピタリ寄せて、「おしっ!」の気合。島川選手は6ヤードのパットを1ヤードショート。これを「お先に」がチョロってボギー。ボヤクことしきり。星野選手、入れパーで勝ちのところ、カップの縁に蹴られてボギー。(初めての引分け)

ホール6…パー4(HCPホール)

強い逆風を突いて両選手ナイスショット。2打目は池超え150ヤード。クラブの選択が難しい。両選手ともボールが風に戻されてグリーンに乗らず。このホールは結局両選手ダブルボギーとなるも、HCPで星野選手の勝ち。(星野選手1アップ)

ホール7…パー4(HCPホール)

星野選手、逆風を突いてフェアウェイ中央にナイスショット。島川選手、「離されんようにしなくっちゃ」とこれもナイスショットだったが、逆風に煽られて200ヤードを残す。2打目は100ヤード足らずのミスショット。これを見た星野選手、4番ウッドで果敢に勝負に出て、僅かにグリーン左へ。島川選手の第3打はピンから6ヤード奥にオン。星野選手の3打目はピンに付けて「OK」パー。島川選手ここで入れてもHCPがあるので負け。島川選手の顔に若干焦りの色が出る。(星野選手2アップ)

ホール8…パー3(HCPホール)

左からの強い風。星野選手は右奥20ヤードにオン。島川選手は左奥のラフに打って、2打目のアプローチも乗らず。3打目を寄せて「OK」のボギー。星野選手、勝負どこのパットを手

堅く寄せて「OK」パー。(星野選手3アップ)

ホール9…パー5 (HCPホール)
強い逆風の中、遂に雨が降り出した。星野選手の第1打はミスショット。危うく池の前でボールが止まった。これ以上離されるとこの悪天候では挽回が難しくなる島川選手の第1打は左前方にある池を真っ直ぐに越える会心のナイスショット！その後お互いにミスショットを繰返し星野選手は池に2回ボチャン。結局島川選手がひとつ取り返した。(星野選手の2アップで後半に折り返し)

ホール10…パー4 (HCPホール)
雨はやや弱くなったものの相変わらずの強風。星野選手の第1打はフックがかかって左の深いラフ。2打目をバンカーに入れるトラブル。3打目がグリーン手前。4打目に乗せて2パットのダブルボギー。一方の

島川選手、第1打をフェアウェー中央にナイスショット。2打目をグリーン右下にオンさせるも痛恨のスリパーパットでボギー。HCPのあるこのホールを引分けにしてしまった。

ホール11…パー3 (HCPホール)
殴りつけるような強い風。島川選手の第1打、見事グリーン右奥10ヤードにオン。星野選手は左のラフに大きく外すが2打目に深いラフから見事なりカバリーショットでピン手前3ヤードに乗せる。島川選手、難しい下りのラインをねじ込む鮮やかなバーディー！HCPのあるこのホール、星野選手が「入れるしかない！」と強めに打ったボールは魔法がかかったかのようにカップの中に吸い込まれた。このホール引分け。決勝戦に相応しい好試合。結果的にはこのホールが勝負の分かれ目となった。(星野選手の2アップ変わらず)

ホール12…パー4 (HCPホール)
気落ちしたかに見えた島川選手の第1打はナイスショットも、次が続かず上がってボギー。星野選手も手堅くボギー。HCPホールを生かして勝ちを拾う。(星野選手3アップ)

ホール13…パー4
両選手パーで引分け。

ホール14…パー5 (HCPホール)
優勝が見えてきた星野選手にプレッシャーがかかったか、ミスショットの連続に島川選手もお付合い。HCPホールだがこれも引分け。(星野選手の3アップ変わらず)

ホール15…パー4
強いフォローの風。星野選手の第1打は右方林の奥。島川選手は中央やや右にナイスショット。2打目勝負となったこのホール、星野選手は手前のグリーン手前にあるバンカー

を意識的に避け、意識的にグリーンに外すショット。島川選手、果敢にグリーンを狙ってピン・ハイ1・5ヤードにナイスオン。星野選手のアプローチは力が入ってピンを10ヤードオーバー。返すパットは逆に2ヤードショート。このホールは島川選手の勝ち。(星野選手の2アップ)

ホール16…パー5

残り僅か3ホール。島川選手が勝つためには、HCPの無いこのロングホールを是非とらなくてはいけない。星野選手はフェアウェーからの寄せをザックリ。島川選手の3打目は逆風に戻されてバンカーで余計な1打。お互いに全力を尽くしてこのホールは結局、両者ボギーで引分け。

ホール17…パー3

いよいよドライバーホール(勝ち数

と残りのホールが同数となるホール)。強い雨が再び降り始める中、両選手とも傘も差さず、ひたすら池に浮かぶグリーンの何処にボールを落とすかに集中している。強風でクラブの選択が難しい。島川選手の第1打は、風に戻されてバンカーを少し出たところにボールが落ちた。星野選手、冷静に打ってピンの左7ヤードにナイスオン。もう後が無い島川選手の第2打は強目に打って危うく池の手前。そこからの第3打もカップを外して8ヤードオーバー。そして4打目、この長い距離をねじ込む土壇場での「根性パット」にやりと笑った星野選手、ラインをじつくり読んで惜しくもバーディーパットを外して1ヤード残り。ここで勝負あり。星野選手、2アンド1(2つ勝って1ホールを残す)で見事優勝!

全力を尽くしての第8回ゴルフマツチプレー選手権は、優勝：星野選

手、準優勝：島川選手。3位：江森選手(ソニー、HCP18)と栗原選手(国際交流基金、HCP11)で幕を閉じました。出場選手並びに本大会の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。第9回大会は来年5月の初旬から約4ヶ月をかけて行ないます。

ゴルフに興味の無い人にはさぞ面白くなかったでしょうね。全部読みきった人はゴルフ部入会の有資格者です。是非マネージャーの方に連絡してみてください。この記事が出る頃は、オーストリー、チェコ、スロバキア、そしてハンガリーの4カ国対抗、「第3回ジェットロカップ」がウィーン郊外で開催されています。去年に続いてハンガリーチームの2連勝を期待します。



ところ変われば

星野 譲司

今年四月イギリス中部からここハ
ンガリーに転任し、それからすぐ月
例を始め皆様と仲良く楽しませて戴
いており有り難うございます。

こちらに来るまでイギリスでの休
日は、土曜日は子供の補習校の送迎
にほぼ一日費やしたことも多く、ま
た冬は気温はそれほど低くないもの
の雨の降らない日はないというのも
言い過ぎではないくらい天気は最悪
で、地面は泥濘状態なのでとてもや
る気力さえおこりません。というわ
けで年に数回程度が普通でした。難
関コースにチャレンジするものとい
つもゴルフ場設計者の罠につかまっ
たまま制覇できずに去ってしまった
のが実情です。

それに比べてこちらに転任してか
らは季節が丁度よいタイミングであ
ったこともあり、春からの気候の良

さにいつ雨が降るのかを気にするこ
となく月に数度は楽しめるようにな
り嬉しい限りです。

一方驚きもありました。以前同じ
会社でドイツにいた同僚がイギリス
に出張に来てたまたまゴルフをする
機会があつた際に、「いやあ換算する
のが難しくて」と何か変なことを言
っているなあと聞いていた記憶がよ
みがえりました。そうです。こちら
に長い皆様はもうごく普通でしょう
がメートル表示です。私にとっては
初めてでしたので、「えっそんな
の？」という感じでした。イギリス
で日常生活の中でメートル法でない
いろいろな単位にわかりにくいなあ
と思っていたことが今度は逆に感じ
ました。

他ではやはり夏の日差しの強さ、
乾燥も大きく異なることも大きな違
いかと。ペットボトルの水一本だけ
持参して喉がカラカラになり、一度
後悔し、それからは欠かさず二本程

度水を凍らせて持参、また栄養補給
のためバナナを持っていくことも多
くなりました。皆様から何か良いア
イデアなどありましたら是非教えて
ください。もしイングラントでゴル
フをされる場合は何か多少は情報提
供できるかもと一瞬思いましたが中
途半端でしたのでお役に立てないか
もしれませんね。

またこれからも色々な違いを逆に
楽しむぐらいの余裕のあるゴルフを
楽しみたいと考えておりますが、出
入りの激しい私の実力ではなかなか
難しいのが現実と思います。自分の
精神力コントロールだけでも難しい
スポーツでそれが面白い部分なので
しょうが。とはいえいつもご一緒さ
せて戴く方々と楽しく過ごせるゴル
フをこれからも続けていきたいと思
います。



ゴルフ三昧！ in Hungary

島川 幹巨

ハンガリー在住の皆さん こんにちは。皆さんそれぞれハンガリーでの生活をエンジョイされている事と思われます。

私がハンガリーに赴任してそろそろ2年が経ちますが、こちらで何より助かったのがゴルフが出来る環境があったことです。元来、ゴルフ馬鹿である私にとって、転勤でなにより気掛かりなのは、ゴルフが出来るかどうかで、ましてハンガリーでどうか非常に心配しておりましたが、こちらに来てホッとした事を覚えております。

着任当初、こちらでのゴルフは日本とは違い少し戸惑いました。長い距離、深いラフ、重い風などなかなか日本国内では経験できないゴルフで、スコアメイクに手間取りました。そんな中、現在、オンシーズンには毎

週のようにゴルフ場に繰り出し、多くの方と知り合うことができ、楽しいゴルフ三昧の日々を送っております。

こちらでのゴルフで、数々のコンペに参加し、楽しかったり、悔しかったりしましたが、一番の思い出は昨年度のマツチプレー（大吉杯）に優勝できたことです。日本ではマツチプレーなどアマチュアがなかなかできない為、どんなものかと昨年参加しましたが、普段のストロークプレーとは一風違った緊張感と駆け引きの中、勝ち進むことができました。

その中サンドデス突入が5戦中2回もあり、とても疲れた記憶が残っております。しかしながら、HDC Pが少し多かった事で、「疑惑の優勝」と皆さん言われ、今年にはハンデイを半分に減らし（減らされ）参加しました。今年の結果は、なんとか決勝までは勝ち進んだものの敗退し、準優勝で終わりました。が、なんと

か「汚名返上」したと自分では満足しております。

あと何年こちらに居れるか判りませんが、目標としては、いつも行くパンノニアゴルフ場の9番ロングでのバーディー奪取と、まだ日本人会、MSC杯の両コンペで優勝がないので一度は優勝をして名前を残したいと思っております。

では 皆さん また楽しいゴルフをしましょう！



ゴルフと芝

町野 憲善

日頃、純粹にゴルフの上達のため、励んでおられる皆さん。また、いかにして、授業料出費を抑え、あわよくば、過去の授業料の回収を画策している皆さん。

ゴルフ雑誌に目を通せば、頭のメモリーが加熱し、熱中症になるほど、多彩な技術論が華やかです。技術論とはまったく別の切り口で、日頃ゴルフ場で大いにお世話になっている芝に関して、興味ありましたのでそれを調べてみることにしました。

気がついて見れば、芝に関する知識といえば、高麗、ベントの2種類の芝のグリーンがあるという程度です。そこで インターネットで探してみました。

驚いたことに 芝といえども、たかが芝、されど芝です。ワンサとありました。

Jリーグがスタートしたところ、TVに写るサッカーグラウンドの芝の美しさに驚いた記憶があります。サッカーとは芝の上でプレーするのか、どうしてあのようにグラウンドに縞模様ができるのか。

インターネットから芝の記事を抜粋してみました。

芝の種類

1. 夏芝（日本芝）

高温に強く、寒さに弱い。北海道では生育が難しい。日本の地区としては関東、北陸地域から西の地域に適する。ただし、関東、北陸地域内の山岳は除く。この芝はほふく茎という茎が広がって増える。

夏芝は4品種ほどに分類でき、更に細かすれば、8種類となる。そのうち高麗芝と名の付く芝は 3種類だけ。

2. 冬芝（西洋芝）

低温化でよく育成し、高温下では育成が弱く、病気にも弱い。関東、北陸の山岳地帯から北の地域に適する。この芝は 種子で繁殖する。ハンガリーの芝は冬芝になります。

冬芝は 11品種ほどに分類でき更に、細かく分類すれば、20種類以上となる。そのうち、我々が知っている、ベントと名の付く種類は 3種類だけです。

どうして芝に縞模様ができるのか

芝刈り機で芝を刈って行くと 芝刈り機の後部のローラーで芝を押し倒すこととなります。芝を押し倒すことにより、一定方向に芝が倒れます。

往復方向で芝を刈ると 芝の倒れている方向がまったく逆になります。芝がどちら方向に寝ているかで 光の当たり方が違い、濃く見えたり薄く見えたりして、縞模様となります。

芝が縞模様になりやすい条件：

- ・ 芝の刈高を高めにしても 芝が倒れやすくなる。
- ・ 芝を常に同じ方向から刈り、芝に倒れやすい癖をつける。
- ・ 冬芝のような、柔らかい倒れやすい芝にする。

サーカスの試合では、審判が縞模様をオフサイド判定の目印にしているらしい。意外な効用。

なぜ春先のグリーンに穴が無数に開いているのか。

穴を開けることはエアレーションといい、芝の呼吸を助け、通気、通水性をよくして芝を若返らせて養分の吸収もよくする役目があります。エアレーションは芝の成長期（春〜夏）に行う。

パットの邪魔ですが、仕方ないか。

温暖な地域でも 冬でも、芝が青いのか。

温暖地用の夏芝は冬に枯れてしまい、茶色へと変色しますが、なぜ青々としているのか？

その理由は ウインターオーバーシーディングのためです。簡単には、冬に枯れない、冬芝の種を 秋口に夏芝の上に 蒔いてそれを成長させる。そうすることにより、暑い時期は夏芝の青さ、寒い時期は冬芝の青さのため、温暖地でも年中青い芝となる理屈です。

理屈として理解できますが、相当のノウハウが必要なことです。

グリーンの速さ

球の転がり速さ（グリーンの速さ）は どのような要素で決まるのか？

単純に芝の刈り高さによって決まると思っていました。高ければ、遅い。低く刈ってあれば早いグリーン。実際は芝の高さと球の転がりスピードとは あまり関係がないようです。どうも迷信のようです。

その速さがきまる要素は、「芝の刈り高さ」、「肥料の量」、「目土を入れる回数」、「ローラー転圧の回数」

速いグリーンをセットするためには、芝を低く、肥料を少なく、目土の回数、ローラー転圧回数を多くすることのようです。

グリーンの速さは ボールの転がるフィート（距離）で表現することを初めて知りました。

一般のグリーンは 8 から 9 フィート

全米オープン等の競技では 13 フィートと早い。

では どのようにして距離を計測するのか？

ステインプルメーターという簡単な道具を使って、ボールを実際にグリーンに転がせてその転がった距離を測定します。

その測定機の構造は V 溝になっている雨どいのような物を想像してください。長さ 90 cm の V 型雨どいの端面から 75 cm の位置にボールが収まるように窪みがあります。そこへボールを乗せて、一端をグリーンにつけて ボールの置いてある端を持ち上げていきます。ある角度まで持ち上げるとボールが窪みから外れて滑り台のように転がっていきます。

ボールの止まった距離を測定します。ちなみに、USGA 公認ステインプルメーターの値段は 26、000 円でインターネットで購入できます。

グリーン芝の芝目とは

グリーン芝には大別して 高麗芝、ベント芝とあります。芝目が強いのは高麗芝、ベント芝は殆ど無く、意識しないほうがよいようです。グリーンは極力、芝目をなくすように整備、刈るようです。

そのため、パットの時は、芝目の方向を読むより、グリーンへの傾斜を読むことが優先されるようです。特にベント芝は。

芝に関する個人勉強会のようにインターネット抜粋記事の羅列の内容となってしまうことを悔いています。



釣り部

釣りのスポーツ性の考察

関本 正

我々釣り部は昨年の創部以来日本人会運動部に所属し活動しております。が、釣り部はスポーツ部なのか？或いは文化部ではないか？と疑問を持たれる向きもありません。思っています。そこで、今回は釣りのスポーツ性につき釣り部の人間として考察(自己弁護)をしてみたいと思います。

1 体力

ご存知ない方も多いと思いますが、一般の釣りのイメージ、御輿を据えて竿をたれ浮木をじっと見つめる、というのは実は一部の釣りだけに当てはまるものです。具体的には大部分が、川の下流域・平野部の湖沼でのフナ、コイ等コイ科の魚の釣り方

です。

それに対し、小笠原の離島などで磯の大物釣りでは、全盛期のシュワルツエネツガーのような、どう見てもまともな仕事についていなさそうな、筋骨隆々の男達がヘルメット・ライフジャケットに身を包み釣りをしております。何故か？磯の大物は針に掛けた後のやりとりが筋肉的に強烈で、かつ、竿に全体重をかけて踏ん張るので、糸が切れたら釣り人はそれこそすっ飛んでしまうからです。磯の大物釣りの人達は日ごろからウェイトトレーニングで鍛えています。マトモな人間ではなかなか勤まりません。

溪流の釣りは基本的に登山の一種の沢登りに近いもので、魚を求め絶えず上流へ上って行きます。磯のシユワちゃんには及びませんが、健脚が求められます。ポイント釣りの場合は、釣りの後、腕とお尻が痛くなります(それは私だけかも知れません)。

2 技術

フライキャスティング、ルアーキャスティング、サーフキャスティング等々、如何に正確・遠距離に毛鉤、ルアー、餌を飛ばすかという分野は独立した競技にもなっており、欧米・日本で盛んにトーナメントが行われています。パリのホテル・リッツの二代目御曹司 **Charles Ritz** はフライキャスティング競技にのめり込み、身上を潰した（ホテルを人手に渡し、た）という逸話もあります。

ゴルフと似ているのですが、飛距離の出るといふ宣伝の竿を若者・オトウサン達は大枚はたいて購入し、人目を忍び練習をしております。人によっては筋トレもしてあります。練習で習得した技術なしでは、練習なしでいきなりグリーンに出るような事になってしまいます。

3 頭脳

スポーツには頭の働きも欠かせませ

せん。フナ釣り・コイ釣りは静の中に緻密な計算を秘めた釣りです。溪流は体を使いますが、頭脳はどちらかと言うと無意識・反射的に使っているという感じです。釣りは野生の生き物との駆け引きです。相手の動きを知り、状況分析し、技術の裏付けのある的確な手を適時打って行く事が必須です。という訳で結構頭を使うんですね。

4 そこで結論

釣りというのは、体を鍛え、技術を磨き、土俵にのる準備をしてから、知力を振り絞り魚相手に試合をする、という事が皆様お分かりになられたと思います（非常に強引な議論にも思えますけど）。

先日、釣り部の合宿で行った湖ではイワナを半日で42匹釣りました。心体の調和のなせる業と自画自賛です。

釣り部のメンバーはそれぞれ今日

も人知れずトレーニングに励んでいるものと推察しております。

5 とは書いてきたものの

まあ、本当のところは、酒とカロリー過多の食事で日々少しづつ身を滅ぼし、たまった心の垢とストレスを都会から離れた釣り場で解消するというのが実際に、少なくとも私は、とても真剣なスポーツをしていると自慢出来るようなものではありません。ひよつとするとこれもゴルフと似ているのかも。釣り部は運動部にいる資格ありでしょうか？皆さん如何思われますか？

6 今年の活動内容

今年はこのことをしてきました。

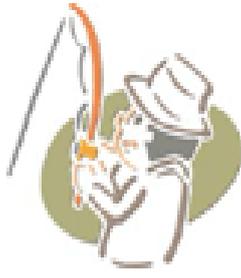
5月 例会（飲み会です）

6月 釣り部合同合宿（爆釣の湖でのイワナ釣り）

8月 釣り部新人研修（爆釣の湖でのイワナ釣り）

9月 釣り部新人研修（溪流でのニジマス釣り、爆釣の湖でのイワナ釣り）
10月上級者グレイリング釣り
11月（予定） 例会

釣り部のメンバーは12名になりました。ハンガリー在住日本人の1%が釣り部部員です。



以下は釣り情報です。

Wienerbruck ダム湖のニジマス

ウィーンからリンツ方面の高速を走り、サンクト・ペルテンで高速を下り20号線を60km 程南へ下ると Wienerbruck という小さな村があります。その村にはダム湖があり、

好事家の間では大物マスの釣り場として知られています。

ブダペストから4時間のドライブの後、湖の近くのカフェで入漁券を購入し、電話で予約済みのボートを借ります。山奥の田舎で釣具を背負ったアジア人は珍しく、朝からビールでご機嫌の地元のおじさん達の視線がずんずん突き刺さります。

カフェの若主人の「Petri Heil(ペトリ・ハイル)」の挨拶を受け、ダム湖へ向かい、ボートを下ろし魚のいそうな浅瀬の方へ漕ぎ出します。

10月になると朝は寒く魚の餌になりそうな羽虫の姿は見えません。それでもところどころ魚の跳ねが見られます。

「多分、ユスリカを食ってるんだろう」と思い、銀糸をボディに巻き、義理の兄が狩猟で取ってきたメス雉の尾羽をウイングに結んだ、「Silver March Brown」という名の毛鉤を9フィート6インチの竹竿から伸びる

ナイロンの先糸(ハリス)に結びます。

辺りを見回すと、30ヤード程離れた水面に背びれを出しながら回遊し何かを食べている魚が見えます。多少緊張しながらも魚が回遊していく先を狙い、毛鉤を20ヤード程キヤステイングします。

狙った場所に毛鉤がふわりと着水、タイミングを置き少し水に馴染ませ、ゆっくりと引き始めます。

と、魚の手ごたえ(アタリ)があり、手首を返し針を魚の口にしっかり掛けます(アワセ)。

そのとたん、魚は急にジャンプし水面にその全身を現しました。ニジマスです。かなり大きい。ニジマスは海水のスズキと同じく針にかかるジャンプし頭を震わせ針を外そうとします。釣り師の間でエラ洗いと言われている行動です。

ここで糸が緩もう事ならニジマスは逃げてしまいます。リール糸を緩

ませないよう操作しながら必死に要らない糸をリールに巻き込みます。じりじりボートに寄せますが、ニジマスは数回遁走を企てます。その度ごと、リールが悲鳴を上げ逆転し糸が20ヤード、30ヤードと出て行きます。アンカーなしの小型ボートも一緒に動いて行きます。竹竿は満月にしなり、結構細い1号のハリスが心配です。

15分程力比べをするとようやくニジマスも疲れてきたようでだんだんボートに寄ってきました。持参の大網の柄を伸ばし水に入れ、ニジマスを誘導します。網を見たたん、ニジマスは最後の気力を振り絞り力泳します。ボートの下に入られ糸が水面に持っていけません。カーボン竿だったら、それで糸が切れてしまったかも知れませんが、竹竿のいいところは粘り強さで突然の走りの衝撃を竿全体で吸収します。

最後の力を振り絞ったニジマスは喘ぎながらようやくネットに収まったのでした。

測ってみると46cmと最初思ったより小さい魚でしたが、写真をとる、魚が回復するまで冷たい水の中で体を支えてやり、ニジマス君の検討を称え帰してやりました。

その日は他にも4〜5匹35〜40cmのニジマス、ブラウン・トラウトを釣り、満ち足りた気分です。ペストに帰りました。

Wienerbruckでの釣りには下オーストリア州の釣り免許が必要です。で、なかなか皆さんをお連れする事が出来ませんが、何時か釣り免許に挑戦し、一緒に行ける人がいればいいなと思っております。



小林研一郎コンサート鑑賞

「第九」を聴いて

坂井 圭子

「今年度最初の朝の歌は、みなさん
もどこかで聴いたことがあるベ
ーヴェンの喜びの歌です。三部に分
かれてアカペラで、それもドイツ語
で演奏します」と言った時、子ども
達はどんな表情をしていたでしょう
か。マエストロ小林がここブダペス
トで「第九」を振られると耳にして
いましたので、ふと考えたことでし
た。その後、日本人学校からも多く
の生徒がその第九演奏を聴きにいく
ということになりましたので、思い
つきを実行に移すことに決めました。
自分で歌った合唱曲を、大ホールに
てオーケストラ伴奏で聴いたら、子
ども達は一体どんな反応をするだろ
うかと考えたら、ぞくぞくとしてき

ました。

何年前になるでしょう。二回ほど
「第九」のソプラノソロを歌ったこ
とがあります。合唱にいたっては、
回数を覚えていません。私にとつて
は、とても思い出深い曲がこの「第
九」です。日本では年末になるとよ
くこの「第九」を演奏します。しか
し、どの合唱団も、耳が聞こえなく
なったベートルヴェンが作曲した
「喜びの歌」には苦勞していました。
例えばソプラノパートの二点ト音が
連続して出てくる箇所です。どの合
唱団へ行っても、この連続音が下が
っていくのです。しかし、そこを大
所帯合唱という形でお互いカバーし
ながら、あたかも美しく二点ト音が
連続しているように聞かせなくては
なりません。合唱の醍醐味といいま
しょうか、第九の人氣衰えぬ所以だ
と思います。

年末に第九が頻繁に演奏されてい
るのは、戦後まもない一九四〇年代



後半、オーケストラの収入が少なく
て、楽団員の年末年始の生活に困
現状を改善したいと、合唱団も含め
て演奏に参加するメンバーが多く、
しかも当時「必ず（客が）入る曲目」
であった第九を日本交響楽団が年末

に演奏するようになり、それを定例としたことが発端となっているそうです。

私がソロを務めたのもプロのオケと地元の有志合唱団が演奏する第九でした。老若男女、この日のために練習を続けてきた方々との共演は圧巻でした。歌っている者も聴いている者も最後には胸が熱くなり、不思議な一体感と達成感を感じる曲です。そこが、一年を締めくくる日本人の気持ちに通じるのでしょうか。

さて、マエストロ小林の演奏当日、会場では低学年の子も含め、多くの児童生徒と会いました。この演奏の一ヶ月前に全学年が小林先生の講話を聞くチャンスに恵まれました。実は、日本人学校校歌の作曲者は小林研一郎氏なのです。子ども達は先生の人柄に触れ、音楽への情熱を感じ、また校歌指導にて目からうろこの体験をしていました。子どもの中には演奏を聴きながらメロディを口ずさ

んだ子もいたそうです。学校ではさびの一部しか合唱していないのですが、それでも自分が歌った曲を迫力ある生演奏で聴いた子ども達には、きつと炎のコバケンの姿とともにブダペストでの「第九」が強く脳裏に焼き付いたのではないかと想像しています。

私には、今回の第九を聴く途中で気になってしまふことがありました。なんとマエストロの指揮台上でのジャンプです。普段より一段と回数が多く、エネルギーッシュで高さもあつたように見受けました。さらに、最後に天井を突き上げ、数秒停止した指揮棒の先には何かメッセーじが隠されているような感じがしていました。演奏終了後、奥様から「前日リハであんなに大変だったのに、本番が素晴らしい出来になって、本当にほっとしました。」とうかがいました。その時やつと「ああ、なるほど」と頷くことができました。私が見た今



日のマエストロは、そのような思いから、演奏中も時にばらけそうになる音を常に一つに団結させようと導いていらした姿だったわけです。そして、突き上がった指揮棒は、演奏者一人一人の意気込みの頂点を示していたのでしょうか。

舞台をうめつくすオーケストラとソリストを含めた合唱団による「第九」は大規模な交響曲です。フルオーケストラに合唱団も時に百人単位であったりします。実際これまで自分でも歌ってきて思うのですが、「第九」の魅力の一つは、聴いている者を感動させるだけでなく、演奏している者をも感動させるところにあるようです。演奏した後のなんとも言えない充実感は、第九のステージにあがったことのある人は、一度は体験したことがあるのではないでしょうか。

第四楽章「歓喜の歌」について言えば、人数だけではベートーヴェンが狙った「歓喜」を表現することはできません。日本人にとっては、原語であるドイツ語がネックになりません。ドイツ語自体つばを吐くようにしゃべる言語です。歌うときは子音をなおさら強調します。だから、譜面にカタカナをふってそれを忠実に

再現してしまうと、「歓喜」を表すパワーに欠けてしまうのです。そのため、ドイツ語発音にも留意しなくてはなりません。前述したように高音連続にも耐えなくてはなりません。それもフォルテにて。だから、ベートーヴェンが書き残した「歓喜」を目指し、演奏者一人一人が燃え尽きるほど頑張ってしまうのが「第九」なのではないかなと思っています。

私が今回マエストロから学んだことは、指揮者の役割、つまり演奏者全員を一致団結にまとめ上げられた指導者の凄みです。やはり指揮者が素晴らしければ、演奏者の意識と技術を感動につながるような演奏に導けることを目の当たりにすることができました。そこから、教師をしている自分を振り返ってみました。一人遊びが主流となっていて現代ですが、社会の基盤はあくまでも「人と人の繋がり」ですから、「他」の大切さに気付かせたいと常日頃思っている

ます。指導者がしっかり目指すものを把握して努めていけば、子ども達も集団を意識し、思いやることや協調することの意義や喜びを学んでいくのではないかと再確認することができました。そして、「音楽指導者ならば、音楽の特性を生かして・・・」と教わった今回の「第九」でした。

鑑賞記

大島 優

7月に小林研一郎さん指揮の第九をききました（見ました）。

曲は知っている曲だったし、指揮者も知っている人だったのでとても楽しみでした。実際きいてみると、音がおどっているような感じで、とてもきれいだっただです。

小林研一郎さんが手を動かすのと

同時に音がなったり、とまったり、それに、オーケストラだけじゃなく、後ろにいた合唱団の人たちも小林研一郎さんの動きに合わせて、立ったり座ったり、きれいにそろっていました。

オーケストラは大変だなと思います。みんなで気持ちをそろえないと音がそろわないし、指揮も、楽譜も、手元も見ないといけないからです。でも、成功したときのお客さんの拍手は、オーケストラでよかったなと思えるときじゃないかなと、思います。オーケストラの人たちに、そういう喜びをあたえ、きている私たちに心からの拍手をしたいと思う音楽をつくる小林研一郎さんは、やっぱりすごい人なんだなと思いました。



山下 芽惟

ハンガリーに来て私たち家族は初めてオーケストラをきくことができました。

先日、日本人学校に小林研一郎さんがいらっしやいました。小林さんは子供時代のことなど教えてくれました。お父さんに「音楽はやめなさい。」と反対されても内緒で曲を作ったりしたそうです。そこまで音楽が好きだったんだなあ、と思いました。

当日は遅れるといけないので、少し早めに家を出ましたが、会場にはすでにたくさんの人たちが来ていました。

いよいよ演奏が始まります。少しかくわくしながらじっとしてききました。

すごい！みんなの音がびったり合っています。いったいどれくらい練習するのだろう。演奏者たちをま

とめてる指揮者ってやっぱりすごいんだなーと思います。

1楽章が終わってもシーンとしていました。後で聞いた話ですが、演奏者のタイミングがずれてしまうので楽章の間には拍手はしないそうです。

思ったより曲は長くて、第3楽章でゆっくりとした曲になると少しいとうとしてしまいました。でも合唱が始まると、最近学校で習ってよく知っている曲なのですぐに目が覚めました。それと同時に4人の歌手が歌い始めました。遠くなのにみんなすごくよく声が聞こえます。特にバスとソプラノの歌声はすばらしかったです。

私たちの席は前から22列目でちょうど演奏者の人たちと同じくらいの高さで、よく観ることもきくことも出来ました。また機会があれば、コンサートだけでなく色々なことに参加して経験してみたいです。



船山 聖奈

私はオーケストラの事は友達から借りた漫画を読んだくらいで、よく知りませんでした。何となく、演奏は指揮者によって大分違うこと、たくさん楽器があつて、全体をあわせるのが大変なんだという印象がありました。実際に、オーケストラの演奏も生で聴いたことが無かったので楽しみでした。

いざ、始めてみると、思ったよ

りも楽器の音が大きくなって、ちょうど良い位の音でした。とちゆうから、歌が入る事は予想してなかったので、歌が入ると歌声が会場に響いて、とてもきれいでした。指揮も迫力があつてすごいと思いました。プロの指揮というのは、腕だけじゃなくて、体で表現することを始めて知りました。

今回、オーケストラの生演奏を聴いてみて、今まで自分が知らなかったことが、体験できたのでとても良かったです。これからも、こういう機会があつたら、是非行きたいと思いました。

船山 憧香

学校から、コンサートの知らせを聞いて、せっかくだから、家族で行くことになりました。私は、テレビでオーケストラの演奏を見たことはありましたが、生で聞くのは初めて

だったので、とても楽しみでした。実際に、始めてみると、色々な楽器があつて、音がとてもきれいでした。日本の学校で、金管楽器を吹いていて、市の演奏会で学校ごとに発表した時の事を思い出しました。でも、やっぱりプロの演奏は違うなと感じました。歌を歌った人の声も会場に響いて、すごく感動しました。交響曲第九番は「喜びの歌」だけかと思つていたのに、他の楽章があることにびっくりしました。

日本にいたら、オーケストラなんて、自分には全く関係なかったかもしれないので、ハンガリーに来て良かったなあと思ひました。日本に帰国したらこんな機会は、無いかもしれないので、ハンガリーにいる間にまた行ければ良いと思ひます。



日本人学校運動会

ホップ、ステップ、

ジャンプの運動会

今年で日本人学校になって三年目。ブダペスト日本人学校にとってはすべての活動や行事がジャンプの年になります。今年の運動会もそういった色合いを強く出そうと教員、児童生徒ともに練りに練ってきました。そんな思いが表れた子どもものの作文の一部を読んでみてください。

小学部6年生 恩田依以子

いよいよ十人演技に入った。まずはピラミッドだ。ピラミッドは乗るところを考えていたので、スムーズに乗ることができた。まずピラミッドは成功。でも次はピラミッドより難しい三段タワー。「ピッ」できるかとても不安だったけれど、がんば

って乗った。わたしが一番上で立ったとき、いつもは落ちたら痛そうな床だったのが、今日は芝生だったので、痛くなさそうで自信を持って立つことができた。他の種目も運動会にはあったのだけれど、組体操が一番印象に残っている。タワーの上から見えたものが私の思い出だ。

中学部3年生 佐藤陽香

最初はいいやいやだったけど、「私が言わなくては。私がやらなくては」という気持ち少しずつできてきました。こんなに自分が変わったのは、初めてです。小負けてしまったことがわかったとき、私は悔しくて泣きまわした。私と一緒に泣いてくれる人がいるのを見てさらに涙が出ました。「陽香さんにとっては最後の運動会だったのに・・・。勝てなくてごめんなさい」という後輩の一言で、私は応援団キャプテンをやってよかった、と心の底から思えました。最後



まで正々堂々と戦ってくれた白組にも「ありがとう」と言いたいです。・・・来年以降も子どもたちの心に残る運動会を創りあげていきま

秋季ソフトボール大会

2007年9月30日



最後のソフトボール大会 日本人学校 中三年 小松 幹

九月三十日、僕はハンガリー生活最後のソフトボール大会に日本人学校チームの一員として出場しました。最後の大会でホームランを打て、とてもいい思い出になりました。思えば僕は、小学三年生のときから

始めたリトルリーグでもホームランとはまったくの無縁だったので、それを打ったときの感触というのが分かります。でもようやく今回のホームランで松井選手やや王監督の気持ちが分かったような気がします。ダイヤモンドを一周するときの感じは、何か気持ちよく僕はそれと同時に優越感を覚えました。ベンチに戻ると、先生方や友達が総出で僕のことを出迎えてくれました。プロ野球選手のようにタッチを次々に決め、椅子に座りました。その後もまだ余韻に浸っていました。

一方試合は最終回までもつれる緊迫したゲーム展開となり逆転ムード（一点差ニアウト二塁）でしたが、とある先生の暴走によりあっけなくゲームセットでした。

それもこれも今回のソフトボール大会は僕にとって忘れられないものになりそうです。

ハンガリー日本人会 2007年第2回ソフトボール大会 トーナメント表

2007年9月30日

3位決定戦

決勝トーナメント

敗者対決戦

グラウンド配座図

タイムスケジュール

開会式	9:00
第1試合開始	9:30
第2試合開始	10:40
第3試合開始	11:40
第4試合開始	12:50
第5試合開始	14:40
閉会式	15:50

野球・ソフトボール

やりませんか

青年海外協力隊野球隊員

セントンドレクラブ

藤原 洋造

ここハンガリーに野球が入ってまもなく20年。少しずつではありませんが確かな発展を遂げています。現在大人（15歳以上）のチームが17チーム、子供が9、そして女子ソフトボールが5チーム。来春には2つの町で新たに野球チームが発足します。最大の喜びは野球をする子供の人数が少しずつ増えていること。今年の夏には、デブレツェンの子供チームがハンガリー国内としては初のアメリカ遠征を敢行。大きなニュースとなりました。今後野球用具を持って町を歩く子供が少しでも増えてくれることを願う次第です。ヨーロッパ全体においても、少し

ずつ普及の輪が広がり、ヨーロッパ野球連盟に所属する国も40を超えました。国境を越えた大会も数多く開催されるようになり、毎年イタリアで開催されている15歳以下・12歳以下の大会にはヨーロッパ諸国から多くのチームが参加する一方、今年の大会には日本や台湾も出場し大会を盛り上げました。もちろんハンガリーもナショナルチームを結成し15歳以下のカテゴリーに参加。昨年は11位（12チーム中）、今年は8位と少し順位を上げました。ちなみに昨年は1人、今年は2人の日本人選手もハンガリー代表として活躍しました。

私達、日本人野球指導者が青年海外協力隊として最初にハンガリーに派遣されたのが一九九三年。14年の月日が経ち、今年12月をもちまして派遣が終了します。これまで12名の野球隊員が派遣され、各地で野球の普及・環境改善に努めて参

りました。各町の小学校の授業や、町のイベントの中の少しの時間を借りての野球紹介、各隊員の日本での知人を通じての野球用具の支援、巡回指導やナショナルチームの指導・引率など、やりたいこととやるべきことを積極的に活動として表現してきました。

そして派遣終了間近となった私たち最後の想いがあります。それは日本の皆様とハンガリーの人たちとの野球・ソフトボールを通じた交流です。日本の皆様の中にも野球・ソフトボール経験者や趣味としてプレイしたい方もたくさんおられることと思います。

もしご希望がありましたら、ハンガリーのチームと交流試合（練習試合）を試みられてはいかがでしょうか。ただ野球となりますと危険性も高くなりますので、ソフトボールの方がよいかと思います。末尾に連絡先等を記していますの

で、英語、ハンガリー語どちらでも構いませんので連絡されてみて下さい。ちなみにハンガリー女子ソフトボールのレベルですが、個々のチームで言えば、日本の中・高の保健体育の授業程度、ナショナルチームで高校の部活動くらいのレベルだと思います。1度日本人会ソフトボール大会で皆様のプレーを拝見させていただきますましたが、おそらくナショナルチームよりも皆様の方が力は上です。もし実現すれば彼女たちにとっても大きなプラスになることでしょう。

日本の皆様とハンガリーの人たちが、野球やソフトボールを通じて交流する環境ができることは、ひとつの大きな夢でもあります。ぜひ異国の地でも野球そしてソフトボールをやりましょう！！

連絡先：

藤原 洋造メールアドレス

y_fujisan_1980_10_11@yahoo.co.jp

センチンドレクラブ長アドレス：

simonyi@enternet.hu

ブダペストアストロス監督兼ソフト

ボール代表監督：Gál Sándor

gsandor@w-mobil.hu

ハンガリー野球連盟HP

<http://www.baseballfan.hu/>

センチンドレクラブHP

<http://www.sleepwalkers.hu/>

※「選手」として本格的に野球をさせたい方は、**Simonyi György** までご連絡下さい。

現在センチンドレチームで子供のカテゴリーで2名、大人のカテゴリーで2名、来春さらに1名、またナジカニジャチームでも1名、日本人選手が活躍しています。



みどりの丘日本語補習校

本日も快晴なり！

フルディ 満名実

春、4月。新学年用の教科書を配布していただいた。5年生と6年生、2学年分。昨年に引き続きこの補習校で教鞭をとることになった私は、今年度、高学年2クラスで同時に授業を進めていく、複式クラスを担当することになった。

教科書に一通り目を通し、1年分のおおまかな指導の目安を立てる。教材を指導するに当たっては、前もってどの教科に基づく指導が適切で、どのような知識が必要なのか、そしてどのような時代背景を理解してもらった上での学習がより効果的なのだろうか、なども含めての年間指導計画を立ててみる。

昨年の2年生担当時から、私はあるギャップの大きさに悩まされていた。教科書にざっと目を通すと、社会科や理科などの学習内容も関係していることがわかる。この補習校では週たったの一日（正確には半日）は国語科のみの授業しかなく、普段日本人学校以外に通っている子供たちには、日本の学校では他教科で補われるはずの学習が欠如しているか、おそらくは日本のそれとは視点をかえて学習している。ハンガリーやイギリスの学習指導要領に基づいて指導される内容は、当然日本のそれとは異なる点が多いと推測される。そのような環境で学んでいる子供たちに、教科書にある教材を総合的に理解してもらい、より楽しく、興味を持って身につけられるような学習をしてもらうにはどうすればよいのだろうか。

日本語を学ぶためだけなら、ここハンガリーでも語学学校はいくらで

もある。日本の学習指導要領に沿った国語教育を目指しているこのみどりの丘日本語補習校は、日本語習得を目指しただけの授業内容であってはならないと、私は常日頃から考えている。とは言うものの、たださえ時間が足りないほどの授業時間で、しかも2クラス分の授業内容を、いったいどのように進めていけばよいか、工夫と発想、そして反省の連続である。

日本人学校の先生方には大変お世話になっていて。日本人学校で使われていた教材をいただく機会があったが、それらは子供たちにとって宝の本の様だ。社会科学資料集にある勇ましくも悲しい武士たちや十二単、見慣れぬ日本地図に添えられた特産物などの写真やルーツなど、例えば、資料集から知る史実に裏付けられた和歌の学習は、生きた知識となつて、子供たちの胸に残っていくのだろうと思う。その、子供たちに与えるで

あろう影響の大きさはとても計り知れぬものだ。この資料集は教室で、子供たちが自由に見て楽しむことができるようにしてあるが、ある子は平安貴族の暮らしぶりが大変気に入ったらしく、それがきっかけで毎回日本語の歴史の本をたくさん持ってきては興味のある子に貸してあげるようにしてくれています（私も楽しみにしています）。

授業が始まる。開始時間とほぼ同時に駆け込んでくる、可能性ではじけてしまいそうな子供たちとともに過ごす土曜日が、今日もやってきた。どの子も普通の学校との両立は大変だろうに、大陸にある小さな日本の空間を楽しんでいるかのようだ。ある子が、最近始めた、ことわざや四字熟語を覚えて使いこなそうという企画「今日のことわざ」をつかって冗談を言い、教室をわかせている。われ先にと競い合って、工夫を凝らした短文を発表したり、日本文の美

しさを感じ取ったり説明文の内容理解に苦しんだりしながら。そして講師から語られる様々な世界に、時に感動し、時に怒ったり、少人数であることも助けとなり物怖じすることなく意見をはっきり主張し合いながら授業が展開していく。授業は、学年別々に進行する場合には、どちらかに課題を与えながら展開し、同時に進める場合には、ある教材に入る前に前もって学んでおくべきことを展開したり、それぞれの学習内容に共通のことを復習しつつ進めたりしながら、5年生にとっては6年生になるにあたって確実に理解できるように、6年生にとってはこれが補習校での最後の学びの時となるので、なるべく無駄なくできるだけ日本文化にも触れつつ応用力がつくだろうと思われる、思いつく限りの様々な手を尽くしての授業を工夫している。そして半日分の授業内容をまとめてひとつの学習になるようにも気を配

っている。

休み時間になった。誰かが日本の家族から送られた珍しい味のお菓子を分け合って食べている。好きなおにぎりの具について話し合いながら、シンプルな塩おにぎりをおぼっている。窓の外では、紅葉し冬支度を始めた木々が今日も微笑んでいる。もうすっかり秋になってしまったのだ。

児童作文

課題「もしも作文」を書いてみよう

3年 望月 海央

もしもぼくが雨だったら上から地面に落ちます。そして、葉っぱに落ちます。そして、ダイヤモンドみたいにきらきら光ります。そして、太陽の光で上の雲に行きます。そして、太ぼくはまた雨になって車の上に着

ちます。そして、すごく早くまどをつたってながれます。そして、地面に落ちます。そして、どろになって川にながれます。さいごに、海に出ます。海ではかの雨つぶと会います。

千年後の世界

五年 茂木 優

千年後のぼくたちは、空気や水をはじめとして二酸化炭素がふえるだろう。そして人間たちがロボットを發明してロボットたちが人間から地球をうばおうとする。そして人間とロボットたちの百年戦争が始まってとうとうロボットたちが勝って人間は絶滅つ。そしてロボットたちは機械なので二酸化炭素がもつとふえて地球があつくなくて氷がとけて地球はただの海になってしまう。そしてロボットも絶滅つ。そして一年後・・・地球と太陽がぶつかって地球はぼくはつすると思います。でもぼくたち人間として温だん化

にならないように自分が出きることをやれば地球はずーつといきのびることも出きるかもしれません。

武士道おもうこと

6年 伊達クリスティアンネ

むかしの人たちといまの人たちは、とてもちがいます。わたしは、「むかしの人たちは、いい人かよくない人かな？」と思います。いまの人たちは、もうこんなことはしていません。多くの人たちは、これは、ばかなことつて言います、でも、ある人たちはむかしの人たちといっしょにかんがえます。せいかいでは、いい人よくない人もいます。こんないい人やよくない人たちは、いまのせいかいには、いっばいいます。いろんなせいかいには、いろんな人たちは、います。だれかは、いい人だし、だれかは、よくない人です。せいかいで、いきる人たちは、じぶんたちともだちのことをかんがえません。わたしは、い

い人なのかどうか、ともだちがいい人なのかどうか、わたしにはわかりません。わたしは、まいにちかんがえます。

自然と私達

6年 山内 規世美

私達はこの間、自然のことを教えてもらいました。一番心に残った話は、バイカル湖のお話です。人間達がお金のために工場を建てたせいで、バイカルアザラシが絶滅しそうな所がかわいそうでした。次に心に残ったのは、ツンドラのことです。ツンドラの下には氷があります。けどまた人間が工場を作つて木を切ったから、氷がとけてこけが生えなくなつてしまします。こけを食べる動物が食べ物なくなつてしまつて死んでしまします。これからは、私も自然のことを考えて大切にしてあげたいです。